

ご協力ありがとうございます！
(敬称略)

【2月の新入会】

牧田 隆 (センター)



【2月の寄付金】

西日本鉄道(株)、(株)大分銀行、九州電力(株)、(株)堀内組
中村造園(株)、岩田産業(株)、(株)スエオカ、室町ケミカル(株)
(株)十八銀行、協和機電工業(株)、古賀昭男、(株)白浜工業
さざなみ保育園、(株)岩田産業グループホールディングス
(株)筑豊製作所、(特活)らいふステージ、(株)宇治川商店
正興電機グループ役員従業員一同、西鉄不動産(株)
(社福)楽天堂恵風苑、西部ガス(株)、熊川工業(株)
(株)石村萬盛堂、(株)カクマル

【2月の寄付品】

原田明、マベ、レオニラ、福岡市立脇山小学校、坂本進
サクラ・チョードリー、坂田艶子、龍野悦子、重松重興
柳原敦子、三浦悟美、渡邊洋美

鬼木大明神 今月の一句

人はチャレンジ、努力する限り迷うものだ！！
一歩でも前に進もう！自分を高めよう！
と思うからこそ人は必ず迷うものだ！！
どこへも進もうとせず努力しようとしな
ひとには、何の迷いもない、悩みもない。
しっかり進むべき方向を見据えれば
自ずと道は見えてくるし、
また迷ったとしても、すぐ答えが出てくる。
迷うことそのものをマイナスと考える必要はない！
迷うことを恐れるな！！



3月の予定

- 7日 PNG 研修生・パトリック、モーセス、のぞみ帰国
- 8日 メキシコ研修生・エリサ、モイ帰国
- 9日 福岡県議連助成金交付式
- 14日 オイスカ朝倉推進協議会役員会
- 19日 オイスカ佐賀県推進協議会幹事会
- 29日 フリースクール玄海立志式(卒業式)

日本語の様子①

新研修生の日本語の勉強が始まりました。日本語を勉強する研修生は10名。はじめに、クラス分けテストを行い、Aクラス(4名)Bクラス(6名)と2つのクラスができました。今年のAクラスは国でよく勉強している研修生が多く、耳と口が慣れたら、よく話すようになると思います。メキシコ人研修生マーティンさんに、「好きな映画は何ですか。」と質問したら、「ドキュメンタリー、戦争の映画が好きです。」と答えました。語彙もいろいろ知っていそうです。

かたや、Bクラスはひらがなを10くらいしか書けない研修生が2名いました。ひらがな、かたかなを覚えることが第1関門です。次に単語を覚えなければなりません。例えば、「としょかん」という単語の意味を理解していないと、

A: 「あしただれとスーパーへいきますか。」

B: 「としょかんといきます。」

とおかしな文を作ってしまう。みんなで、ジェスチャーで図書館をかついで笑いました。

ですが、PNGの研修生は「さかな」をすぐ覚えました。「おさけ」も みんな すぐ覚えます。きっと、好きなんです。好きだったら覚えます。研修生にもっと日本語を好きになってもらえるように、頑張りたいと思います。頑張れ、研修生！ (立石考子)



B クラスの様子



A クラスの様子



まるごと!西日本

発行:(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部
福岡市早良区小笠木 678-1

TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322

E-mail: oiscantc@oisca.org 検索 オイスカ西日本

第676号

令和2年3月号付録

「2色刷り」



←Facebook に日頃の様子を更新中！
是非チェックお願いします！



九州電力ワンコイン贈呈式

2月4日、今年も九州電力の社員の皆様からワンコイン支援金を頂きました。当日は、オイスカ西日本支部運営委員会委員長(九州電力総務部長)の田中様に来所頂き、社員約6,000名よりオイスカ活動にご賛同頂き貴重なご寄付を頂きました。研修生も帰国前でそれぞれ日本での研修結果、帰国後のアクションプランを発表し、田中部長からは「帰国後の皆さんの成功を祈ります。頑張ってください。」と激励の言葉を頂きました。九州電力の社員の皆様、ありがとうございました。(廣瀬)



第12回 We Love オイスカゴルフコンペ

2月15日(土)、伊都ゴルフ倶楽部で「第12回 We Love オイスカゴルフコンペ」が行われました。今回は76名の参加者があり、思い思いにプレーを楽しめました。

この日は2月にもかかわらず、初夏を思わせるような暖かさであったり、途中小雨が降るなど不安定な気候でしたが研修生もスタートホールでの写真撮影やチャリティホールでの協力の呼び掛けを行いました。

懇親会では研修生が帰国後のアクションプランの発表やバンブーバンドの演奏で会場を盛り上げ、引き続いて行われました表彰式ではラブ・グリーンの会理事長の西秀樹様が2度目の優勝をされました。おめでとうございます。

また、参加者からいただきましたチャリティの金額は13万5,000円でした。多くのご協力をありがとうございました。次回も実施する予定ですので、ご参加をよろしくお願いします。(安東)



佐賀料理交流会

2月11日(火)、今年度2回目の料理交流会が佐賀でありました。今回はスリランカ料理ということでスリランカのワサナさん、インドのディリープさん、チベットのサンモさんと補助でリナさんが講師として参加をしました。

参加者は22名です。今回もスリランカカレー、インドのチャパティ、チベットのモモの3グループに分かれて行いました。食事を摂った後でワサナさんがスリランカの国の紹介を行いました。参加者からも質問が出たり、驚きの声が出たりと様々な反応がありました。

ご参加をしてくださりました皆様、ありがとうございました。次回も国を変えて行う予定ですのでご参加をよろしくお願いいたします。(安東)



脇山小学校お別れ会

2月19日、脇山小学校で研修生とのお別れ会が行われました。脇山小学校とは田植え、夏まつり、稲刈り、運動会、餅つきなどいろいろな行事を子ども達と一緒に取り組んでおり、研修生にとって思い出のある学校です。最初に子ども達の授業風景を見学した後、それぞれの学年に入って歌を披露してもらったりレクリエーションをしました。子どもから「脇山での1番の思い出はなんですか?」と聞かれ研修生は「畑にいる時にあいさつをしてくれたことです。」と話しておりました。最後に体育館でフィジーとインドの踊りをみんなで踊り大盛り上がりでした。そして、子ども達が研修生にプレゼントをくれました。研修生へのメッセージ、国の言葉のあいさつ、似顔絵が書かれており、研修生達はいろいろ思い出して泣いていました。子ども達にとっても研修生達にとっても忘れられない思い出がたくさんできたと思います。ありがとうございました。(園田)



八江農芸育種農場視察

2月26日(水)、長崎県諫早市にある八江農芸株式会社の育種農場に、先輩研修生全員で視察に行ってきました。八江農芸様には、短期外部研修で毎年研修生がお世話になっており、今回の視察でも会社の概要から農場の見学、育種の技術についての説明など、細かく指導をしていただき、研修生にとっても大変勉強になりました。

また、この育種農場には立派なミャンマーのパゴダが建立されており、八江農芸の創業者のミャンマーとのつながりや思いについて説明を受け、そのミャンマーで育種

の事業を展開していることに研修生は強い関心を示していました。ミャンマーの研修生サイは久しぶりにパゴダでお祈りをする事が出来て喜んでいました。

(豊田)



令和元年度 海外研修生修了式

2月22日、前日からの雨もおさまり、新型コロナウイルスの警戒中ではありましたが、令和元年度海外研修生研修修了式を無事挙行することができました。当日はオイスカ本部より中野悦子理事長を始め、多くの来賓、会員の皆様が約170名程集い、全員マスク着用の中、厳粛な式典となりました。西日本支部の瓜生会長(九州電力㈱代表取締役会長)からは「帰国後、日本での研修の成果を活かし、母国の為に頑張ってください」と激励を頂きました。研修生代表のスピーチはナズマさん(バングラデシュ)が挨拶し、「ここで出来た新しい家族との絆を大切に、母国で頑張ります。」と涙ながらに話していました。新型コロナウイルスの影響で各種イベント等が中止される中、多くの方に見送って頂き感謝致します。

研修生は当初の帰国予定を変更、前倒して2月26日より帰国を開始しました。いつの日か、彼らに再開できることを楽しみにしています。ありがとうございました。(廣瀬)



2020年新研修生入所・対面式・オリエンテーション

1月31日と2月1日に、9か国1地域12名の研修生(国際協力ボランティア1名含む)が入所しました。今年は暖冬とはいえ、緊張と寒さで、はじめは表情が硬かったですが、頼りになる先輩研修生のおかげで、少しずつ笑顔が見られるようになりました。週が明けて、2月3日にセンター内で対面式が行われました。センタースタッフ、先輩研修生、新研修生の順に自己紹介をします。例年はセンタースタッフと、新研修生のみなので、今年はとても賑やかでした。

続いて、オリエンテーションを行いました。研修を行う上でのルールは、簡単な日本語と各国語訳で説明をしました。各国語訳を準備できなかった国は、先輩研修生が通訳してサポートしてくれました。あいさつや、食事のマナー、ごみの分別、掃除の仕方、布団の敷き方等々も、写真や実技で学びました。はしの使い方に四苦八苦する研修生もいました。

また、各自の健康状態や食事制限などをインタビューしました。英語がわからない研修生もいるので、オイスカ西日本支部会長 瓜生様より寄贈いただいた「ポケットク」が役に立ちました。

初めての異国での生活、初めての国の人との生活、よくわからない食べ物、わからない言葉、まだまだ、大変だと思えますが、失敗しながら、日々の生活で身に付けていってほしいと思います。(立石 孝子)



体験農園ふるさとだより

2月29日(土)センターにて令和2年度の春夏作の開始式が行われました。

当日は新型コロナウイルス対策ということで、センターでは場所決めのみを行い、すぐに農園に移動してニンジンとジャガイモの播種作業を行いました。

今回のウィルス騒動を考えても、インフルエンザなどすでに蔓延しているウィルスも含めて、やはり最後には人間がウィルスに打ち勝つだけの免疫力、抵抗力をつけることが重要になってくると思います。日常の食べ物から生活習慣に至るまで、各自がもう一度見直して、やはり日本人であればお米を主体とした食生活、そして安心安全な野菜をしっかりとることが大切だと思います。(もちろんお肉、魚などのたんぱく質も大切です)

オイスカの体験農園では、四季を通じて美味しい有機野菜を

収穫することが出来、「お陰様で野菜主体の食生活で健康になった」と感想をいただく方もたくさんいます。

皆さん、私たちと一緒に野菜作りをはじめましょう。(豊田)



👉 種まきをしている様子

北九州市産業視察訪問

2月25日、研修修了生19名は北九州市若松区にあるエスジーグリーンハウス株式会社とシャボン玉石けん株式会社の見学をしました。エスジーグリーンハウスは、ハイドロカルリウムレタスの栽培をしている、「うるおいレタス」を興味深々と見入ってカメラに収めていました。午後はシャボン玉石けん(明治43年創業)を訪問して無添加石鹸の製造ラインを見学、研修生たちは日常生活に身近なものとして熱心に見て回り、販売コーナーでは商品をお土産として購入するなどしていました。研修生たちにとって思い出に残る日本で最後の産業視察になりました。ありがとうございました。(満川)



アクションプラン発表

帰国を控えた先輩研修生18名は、2月18日、19日の2日間にわたって、アクションプランの発表会をセンターにて行いました。昨年12月の日本語検定試験が終了してから準備をはじめ、質問事項への記入から3度のインタビューを経て、毎年の事ではありますが発表直前で18名全員のアクションプランを仕上げる事が出来ました。当日は、一人20分程度の持ち時間の中で、多少誤字などはありませんでしたが全員立派に発表し、質問にもしっかりと返答していました。今回彼らの思いの中にアクションプランという種をまきましたが、それがいつ花が咲いて大きな実を結ぶのかとても楽しみです。帰国してからの研修生の活躍が大いに期待されます。皆さん、これからも温かくOB研修生を応援していきましょう。(豊田)



研修生帰国

2月22日に無事に修了式が終わりました。例年通りであれば3月上旬に上京し、MUFGの修了式、料理交流会、小学校との交流、アクションプランの発表の予定でしたが、コロナウィルスの影響で全ての行事が中止となり、早めに帰国することが急遽決まりました。フィジーの研修生は家庭の事情で25日に帰国し、26日にはモンゴルの研修生、28日にインドネシア、マレーシア、バングラデシュ、インド、ミャンマー、チベットの研修生が朝から午後にかけてセンターを出発。29日にはスリランカの研修生が出発しました。メキシコ、PNGの研修生は3月上旬に帰国する予定です。研修生は部屋の片づけ、荷物と心の準備をバタバタし、母国へ旅立ちました。研修生達の最後の挨拶では約1年間、多くの方のサポートで研修を受けることができました。本当にありがとうございました。と話していました。研修生とのお別れはつらいですが、ここからが研修生達のスタートです。アクションプランの実現に向かって頑張ってください。研修生達を応援している人はたくさんいます!(園田)



脇山校区料理交流会

2月14日(バレンタインデー)、脇山校区料理交流会が行われました。今回はメキシコ料理2品を作りました。タコスとアステカスープです。メキシコのモイさんとエリサさんが担当で、料理を教えました。長崎県立大学の学生3名と私がサポートをして行ってきました。参加者は20名ぐらいです。皆、料理がプロの方々ですのですぐに料理が出来ました。トウモロコシ粉とトルティーヤ用の道具は新研修生がメキシコから持ってきてくれました。本物の粉を使ったので生地が柔らかくて食べやすかったです。味も美味しかったです。野菜とアボカドとトマトたっぷり入っているので、ヘルシーな食べ物です。スープ担当のモイさんが緊張をしながら、皆に教えましたが無事に美味しくスープが出来ました。参加者の皆が美味しく食べられたと思います。大学生が手伝ってくれてよかったと思います。食事の後、メキシコの国の紹介をしました。日本に来て10カ月経ち、2人とも日本語で発表しましたが、ずいぶんと上手に話していました。(リナ)



👉 トルティーヤ



👉 タコス と アステカスープ



オイスカ研修の思い出

2週間という短い間でしたが、オイスカ研修生のみなさんと過ごすことが出来て本当に幸せでした。最初はとても不安でしたが、初日に、サンモが作ったチベット料理のモモをみんなで食べた時から不安は無くなって、毎日楽しく研修することが出来ました。私は、オイスカでの思い出を毎日振り返っています。短い間だったけど、たくさんの思い出が出来ました。毎日の早起きも点呼もランニングも掃除も、研修生の皆と一緒にだったから毎日楽しかったです。初めての農業も、私の仕事がとても遅くて下手くそでみんなに申し訳なかったけど、みんなが優しく教えてくれてフォローしてくれて、手が冷たくても寒くても気にならないくらい楽しくてもっとみんなと農業をしたいと思いました。日本語の授業では、新しい研修生のみんながとても一生懸命勉強していて、きっとみんなにとっての日本語はとても難しいものだと思うけど、みんなの成長の速さに本当に驚かされました。うどんを作ったり、脇山公民館でタコスを作ったり、小学校のお別れ会に行ったり、沢山のことを一緒にすることが出来ました。アクションプランの添削では、少しでも手伝うことができたことが本当に楽しかったです。みんなのアクションプランは本当に素晴らしくて、発表もとても上手で、私は研修生のみんなの事を、本当に心から尊敬しています。研修生達と過ごす中で、私もみんなのように、夢を持って、そのために沢山勉強をして、頑張りたいと思うようになりました。修了式では、研修生達の晴れ姿を見ることが出来て本当に嬉しかったです。みんなきれいでかっこよくて、とても晴晴とした表情で感動しました。修了式前の忙しい時に、私たちを受け入れてくださったこと、沢山優しくしてくれたこと、本当に感謝しています。オイスカの思い出は私の宝物です。みんなと食べたご飯の味一生忘れません。それぞれの国に帰って、活躍してくれることを心から祈っています。貴重な時間をオイスカで過ごすことが出来て本当に幸せでした。(長崎県立大学 4年 河野初音)



10日間という短い間でしたが、とても楽しく過ごさせていただきました。最初は10日間が長く、他の研修生と仲良くなれるか非常に心配と不安に溢れていました。しかし、他の研修生とセンターの外での交流を行ったり、日々の研修や食事をしたり、お話をしたりして非常に楽しい時間を過ごすことが出来ました。先輩研修生のみなさんとは一緒に農業を行う中で楽しくコミュニケーションを取ることができました。研修生のみなさんは母国のお話をしてくれたり、母語を教えてくれたり、普段の学生生活では中々できない体験をすることができました。新しい研修生とのみなさんも食事の時間にたくさんコミュニケーションを取ることができ、楽しかったです。アクションプランでは研修生の皆さんが母国や生まれ育った地域のために何か行動を起こしたいという気持ちが伝わってきました。そして、その気持ちは私が忘れかけていた気持ちを起こしてもらっかけとなりました。来月から新しい環境になるため、何かしら目標を持ってそれに向かって頑張ろうという気持ちになりました。最後の修了式では、先輩研修生のみなさんが今まで過ごされてきた1年間の集大成に参加することができ、光栄でした。1年間みなさんが過ごされてきた思い出を見て胸が熱くなりました。みなさんのこれからの決意や思い出を聞いて、涙が止まらなくなりました。研修生達の想いを聞いて私も気持ちを前向きにして、これからの活動を行っていきたいと思います。お忙しい中本当にありがとうございました。(長崎県立大学 4年生 吉富 奈央)

2月20日、2回目の雪が降りました。1回目よりはけっこう雪が降りました。センターではそんなに雪が降らなかったのですが、背振の下にまで行って雪遊びに行きました。これが先輩研修生達の最後の雪です。後輩研修生はもし来年雪が降ったら、また見られると思います。今回は写真のように雪だるまを作ることが出来ました。今回、中々こういうタイミングがないと思いますが、後輩と先輩と一緒に雪遊びが出来て、非常に嬉しかったと思います。良い思い出になったと思います。モンゴル以外の人は真っ白な雪を見て非常に印象に残ったと思います。(リナ)



2019年度研修生 アクションプラン



きのこ栽培をしたい。(ナズマ)

新しい研修センターを作りたい。ディリープ

センターでボランティアした後、故郷でカバづくりと養鶏をしたい。(トム)

センターでスタッフをした後、故郷で日本料理やお菓子の店を作りたい。(エル)

センターでボランティアした後、白い唐辛子を栽培したい。(ケイティ)

故郷の山でアカベを栽培したい。(モイ)

シードバンクを作りたい。(エリサ)

両親と一緒に野菜と苺の栽培をしたい。(ムギ)

日本で学んだことを村の人達に教えたい。(デギ)

センターで働いた後、何をしようの栽培をしたい。(サイ)

カカオの栽培をしたい。(モーセス)

センターで3年働いた後、故郷で農業をしたい。(パトリック)

日本の文化、日本語をもっと勉強して、日本で働きたい。(のぞみ)

センターで働いた後、家族で農業センターを作りたい。(デリック)

日本語の先生になりたい。(ワサナ)

パンを作って販売したい。きのこの栽培もしたい。(サンモ)

後1年日本で研修を頑張ります。帰ったらパン屋を作りたい。(ウス)

1年間ご支援ありがとうございました。みなさまのおかげでいろいろな勉強ができました。国へ帰ってから、アクションプランを頑張ります！！

